

臨床看護実践における「アンテナ」の概念分析

秋田 由美*

The concept analysis of “the antenna” in clinical nursing practice

Yumi AKITA*

抄録

目的：臨床看護実践における「アンテナ」の概念を明らかにし、看護実践への示唆を得る。

方法：Walker & Avant (2005/2008) の概念分析の手法を参考に文献を分析した。

結果：臨床看護実践における「アンテナ」の定義属性は【意図的に研ぎ澄ませる感覚（五感・直感）】【対象から発せられるサインに向ける注意】【対象から発せられるサインや変化を見逃さない心構え】【判断材料にするための情報収集】【臨床経験の中で磨かれる受信能力】であった。先行要件に＜良くない病状や変化＞＜言語的コミュニケーションによる理解が困難な対象＞＜何が起こるか予測が難しい状況＞があり、結果として＜ケアの必要性の判断＞、＜対象理解＞が生じていた。

結論：「アンテナ」は【対象から発せられるサインや変化を見逃さない心構え】をもって【意図的に研ぎ澄ませる感覚（五感・直感）】という定義属性を持っていた。それは先行する判断材料が必要な状況で、「情報を取り逃したくない」という看護師の思いが影響していると考えられた。

キーワード：アンテナ，看護，概念分析

Key words：Antenna, Nursing, Concept Analysis

I. はじめに

看護実践における「アンテナ」に言及した論文はいくつかある。例えば、神経難病患者の心のケアについて、そのケアの必要性等を看護師が捉える際に、「患者の気持ちを察知できるようアンテナを張る」とした原らの文献（2012）や、精神科中堅看護師による精神障害者を理解する自己投入コミュニケーションの構成要素として、「アンテナ」を挙げている山下らの文献（2012）、小児科一般外来における看護師の働きとして、「アンテナ」を張る様子を記述した飯

村の文献（2014）等である。それらは、臨床看護師へのインタビュー等から得られたデータを質的に分析し、看護師が語った「アンテナ」をカテゴリー名などに使用している。これらの文献は対象としている看護師が異なるだけでなく、その臨床経験の場も異なっている。それにも関わらず、共通するキーワードとして「アンテナ」が現れるのは、臨床経験豊富な看護師に「アンテナ」に対する共通概念があるためと考えられる。しかし、「アンテナ」の概念は明確に定義されておらず、どのような場面でどのように活

*駒沢女子大学 看護学部 看護学科

用されるのかも明確ではない。筆者が行った小児がん患者が多く入院する病棟のフィールドワーク（秋田，2018）でも、中堅以上の看護師は自らの看護実践の説明に「アンテナ」という言葉を用いていたが、同時にそれを経験の浅い看護師に伝える難しさも語っていた。この概念を明確にすることができれば、看護実践における「アンテナ」をより詳細に検討することができ、また、「アンテナ」を張ることができない経験の浅い看護師がその能力を身に着ける一助になると考える。

II. 目的

看護実践における「アンテナ」の概念を明らかにし、看護実践への示唆を得ることを目的とする。

III. 研究方法

本研究では、Walker & Avant (2005/2008) の概念分析の手法を参考にした。Walker & Avant の手法では「辞書、シソーラス、同僚、そして利用可能な文献を使って概念のできるだけ多くの用法を発見し、明らかに」する (Walker & Avant, 2005/2008)。「アンテナ」は広く一般にも使用される言葉であり、看護師が張る「アンテナ」は一般的な「アンテナ」の影響を受けていると考えた。そのため、より広い用法を活用する Walker & Avant の概念分析を参考にする事とした。なお、本研究は人を対象とする研究ではないため、倫理審査は受けていない。

1. 分析対象の選定

まず、一般的な用法を明らかにするために、日本大百科事典（ニッポニカ）、日本国語大辞典の「アンテナ」の項を参照した。そして、朝日新聞の記事データベースである「聞蔵」から見出しに「アンテナ」を含むものを閲覧し一般的な「アンテナ」の用法をまとめた。

その上で、医学中央雑誌から下記の方法で分析対象文献を抽出した（表1）。

検索年の限定はせず、キーワード検索で「アンテナ」と「看護」を掛け合わせ、会議録を除いたものは45件であった。そのうち、連載企画名に「アンテナ」を含むが本文中に「アンテナ」を使用していなかったもの、医療機器のアンテナに関するもの、資格取得・潜在助産師の活用など看護実践とは異なる内容のものを除外した結果14件が該当し、これらを分析対象とした。なお、英語では antenna を日本語と同様には使用しておらず、検索しても該当する文献はほとんどなかったため、英文献は今回の分析から除外した。

2. 分析方法

まず、対象文献から「アンテナ」が含まれる文章を抽出した一覧表を作成し、「アンテナ」の用法を明らかにした。そのうえで、看護実践における「アンテナ」の定義属性を分類・整理し、モデル例を作成した。定義属性とモデル例および対象文献から抽出した「アンテナ」の用法を複数回にわたって比較検討し、合致していることを確認した。そして、先行要件、結果を整理し、補足例として看護学生の「アンテナ」と保健師の「アンテナ」を挙げた。

IV. 結果

1. 一般的な「アンテナ」の用法

日本大百科事典（ニッポニカ）では、アンテナを「電波を吸収（受信）または放射（送信）するための装置」「昆虫の触角」とし、「特定の方向に強く電波を出し、その他の方向には出さないという機能を有している。これを指向性という。」という記述があった。さらに、日本国語大辞典では、アンテナを「(比喩的に) いろいろな情報を聞きとる手掛かりとなるもの」「情報を敏感にとらえる能力のある人」とし、アン

表1. 分析対象文献

1	岡田 恵美子 (1999):【広がれ,精神障害者と共生きる地域ケア】 隠された力を生かすアンテナをはりめぐらせて, Nurse eye, 12(11), 13-15.
2	折笠 精士, 小宮 敬子, 宮本 真巳 (2002). 看護場面の再構成による臨床指導 言葉に頼れない世界で 身体感覚をアンテナにして, 精神科看護, 30(1), 80-89.
3	滝口 治代, 伊藤 令子, 安村 真由美, 他 (2006): 新人看護職員の看護実践能力育成に関する検討, 山口県看護研究会学会学術集会プログラム・集録, 5回, 37-39.
4	笠井 純, 瀬良 栄子, 山下 浩美 (2007): 外回り看護師が持つ暗黙知の可視化 患者入室から手術開始までの外回り看護師がとる行動の意味, 日本手術看護学会誌, 3(1), 80-83.
5	清水 希有子, 児玉 真由美 (2007): 看護学生の神経筋難病病棟の見学実習における学び レポートの分析と今後の課題, 中国四国地区国立病院附属看護学校紀要, 3, 63-71.
6	大澤 千恵, 堀井 節子, 福本 恵 (2009): 熊本県の水俣病における看護活動, 日本看護学会論文集: 地域看護 (39), 131-133.
7	原田 雅子 (2011): 熟練外来看護師のやりがい獲得の過程に潜在する実践知の可視化, 日本看護科学会誌, 31(2), 69-78.
8	原 三紀子, 小長谷 百絵, 海老沢 睦, 他 (2012): 看護師がとらえた神経難病患者の心のケア 心のケアの目標とその取り組み, 日本難病看護学会誌, 17(2), 137-149.
9	山下 典子, 山崎 登志子 (2012): 精神科中堅看護師による精神障害者を理解する自己投入コミュニケーションの構成要素とプロセス, ヒューマン・ケア研究, 13(1), 28-39.
10	伊藤 恵子 (2014):【ナラティブ・オンコロジー - 緩和ケアの実践のために】 ナラティブ・オンコロジーにおけるパラレル・チャート タップストローク 看護師のアンテナがとらえた瞬間, N: ナラティブとケア (5), 46-47.
11	飯村 直子 (2014): 小児科一般外来における看護師の働き ある地域密着型中規模病院におけるエスノグラフィー, 日本看護科学会誌, 34, 46-55.
12	仲村 直子 (2017):【循環器疾患患者さんのメンタルケア :8つの具体例から学ぶ】 (具体例1) 循環器看護からみたメンタルケア, 循環器ナーシング, 7(6), 26-32.
13	山下 恵 (2018): 高齢者の健康度が高い地域における保健師活動の特徴, 日本赤十字看護学会誌, 18(1), 11-18.
14	秋田 由美 (2018): 小児がんにより長期入院している学童・思春期の子どもの気持ちに対する看護師の理解と関わり, 日本看護科学会誌, 38, 299-308.

テナを張るの意味を「気をつけて、いろいろな情報を集める」としていた。

また、聞蔵では、見出しに「アンテナ」を含む記事が1557件あり、「アンテナショップ（アンテナ店含む）」に関するものが多かった。こ

のアンテナショップは、「企業や自治体などが自らの商品、特産品、技術などを広く一般にPRし、消費者の反応や流行を探るために設ける店。販売目的と同時に、消費者情報の受・発信の役割を果たしていることからアンテナ

ショップとよばれる。」(日本大百科事典)とされていた。「アンテナ備品落下」「通信アンテナ」「パラポリアンテナ」「テレビアンテナ」など電波を受信または送信する装置そのものを示しているものや、「(蚊の口は)獲物の熱を感知するアンテナ」「眼の細胞は光、鼻の細胞はにおいを感じるなどアンテナの役割をしている」といった生物の外部刺激の受容体を示しているのがあった。そして、「世の中にアンテナを張る」「国内外問わずアンテナを張り巡らせて情報キャッチ」「消費動向を探るアンテナ」といった、人が情報を集めるために受容体を張り巡らせることを示す記載があった。

以上から、「アンテナ」の一般的用法として、①電波を吸収(受信)または放射(送信)する装置、②生物の外部刺激の受容体があった。また「アンテナを張る」には、人が幅広く情報を集めるために受容体を張り巡らせるという用法があった。

2. 看護実践における「アンテナ」の用法

以下、分析対象文献からの引用は斜字体とし、()内に表1の文献番号を示した。

各文献に記載されている「アンテナ」の記述を抽出したところ、「【アンテナ】は(中略)看護師が直感的に患者から発せられる様々なサイン・信号を逃さないように注意を払っていることを示すカテゴリーとした(9)」「看護師はひとり一人の子どもと家族の状況を把握するだけでなく、待合室全体を見渡して、何か異常なことではないか、緊急に判断しなければならないことではないかと常に『アンテナを張って』優先順位を判断していた(11)」等の記述があった。

これらから、看護実践における「アンテナ」の用法として、①特定の患者やその家族などの対象に対し、サインや変化を見逃さないために意図的に注意・関心を向けて働かせる五感、②外来など何が生じるかわからない状況下で異常

の有無や、緊急性等を判断するための広範囲の情報収集、という2つの用法を挙げた。

3. 看護実践における「アンテナ」の定義属性

看護実践における「アンテナ」の定義属性を以下のように示した。明らかになった定義属性は【】で括った。

「看護師自身の五感を働かせてアンテナを張り(8)」「アンテナを張り巡らすようにしています(12)」というように、看護師の「アンテナ」は【意図的に研ぎ澄ませる感覚(五感・直感)】であり、患者(8)や家族、親子(11)の表情、しぐさ、言動(11)、モニター音(4)などの【対象から発せられるサインに向ける注意】であった。そして、「その場面から得られる情報の全てを捉えようとする(14)」「些細な変化も見逃すことがないよう(9)」等【対象から発せられるサインや変化を見逃さない心構え】も含まれていた。また、「心のケアの必要性をふるい分け(8)」や「起こりうる変化の判断材料とする(4)」など【判断材料にするための情報収集】であった。

さらに、「アンテナは短い時間の中での確に関わろうとする熟練外来看護師の持つ鋭い感性であり、常に患者に専心していればこそ磨かれるもの(7)」「患者の些細な言動の変化やキーワードを察知する能力が身につき、『アンテナ』が創造・精鋭化される(9)」というように、「アンテナ」を臨床経験の中で磨かれる能力としている文献もあった。このことから、患者や家族等の対象に集中して関わる経験を積むことによって向上する能力であることを示す【臨床経験の中で磨かれる受信能力】もアンテナの定義属性に含めた。

4. モデル例

看護実践における「アンテナ」のモデル例を以下に示す。

小児科外来で働く熟練看護師のAさんは、

外来が混雑してくると待合室に行き、全体をくまなく見渡す。その中で、様子が気になる子どもがいれば、さっと近づき、保護者の話を聞くだけでなく、子どもの体に触れたり、目線やにおい、姿勢も確認し、保護者の表情や身だしなみなど、感覚を研ぎ澄ませてあらゆる情報を集める。

5. 看護師が張る「アンテナ」の先行要件と結果

以下に先行要件と結果を<>で示す。

先行要件としては、「入退院が繰り返されている時、入院が長引いてきたとき、合併症が起きたとき、治療の効果が見られなくなったとき、医師からの厳しい病状説明があった時 (12)」といった<良くない病状や変化>があった。また、「(患者が話したくない等) 無理には話を聞けない (8)」、「神経難病 (8)」や「コミュニケーション障害 (9)」、「子ども (14)」などの<言語的コミュニケーションによる理解が困難な対象>が挙げられた。さらに、「外来 (7, 11)」や「手術室入室時 (4)」など患者の情報が十分でなく<何が起こるか予測が難しい状況>が挙げられた。

結果としては、「心のケアの必要性 (8)」「看護介入が必要か否か (7)」「優先順位 (11)」等の<ケアの必要性の判断>と、「患者理解 (9)」「精神的な問題を抱える患者への気づき (12)」「その子らしさを捉える (14)」といった<対象理解>が生じていた。

以上から、看護実践における「アンテナ」の

概念を図1のように示した。

6. 補足例

1) 境界例：看護学生のアンテナ

「こうして検討してみて、自分の中に沸き起こっている感動や感情を手掛かりにしながら柏木さん (精神科病棟に入院していた実習受け持ち患者) と関わっていることがわかった。言葉を用いない代わりに、私は自分の身体感覚や感情を頼りに柏木さんと関わっていた。(2)」

これは精神看護学実習における体験を学生自身が振り返った中に記述されていた文章である。この文献には、この患者が「言語表現がほとんどない」<言語的コミュニケーションによる理解が困難な対象>であることや身体感覚や感情を頼りに関わった結果、「多くの場面で私は柏木さんの伝えたいことが感じ取れるようになり (2)」という<対象理解>が生じたことが記述されていた。しかし、事後に振り返ったことで「自分の中に沸き起こっている感動や感情を手掛かりにしながら柏木さんと関わっていることがわかった (2)」としているように【意図的に研ぎ澄ませる感覚 (五感・直感)】という主体性を持ったものではなかった。意図的ではないが、身体感覚を用いて<言語的コミュニケーションによる理解が困難な対象>に対して、【対象から発せられるサインに向ける注意】であり、【対象から発せられるサインや変化を見逃さない心構え】も含んだ【判断材料にするための情報収集】であり、これによって<対象理解>を行っていることから、境界例とした。

先行要件	属性	結果
<良くない病状や変化> <言語的コミュニケーションによる理解が困難な対象> <何が起こるか予測が難しい状況>	【意図的に研ぎ澄ませる感覚 (五感・直感)】 【対象から発せられるサインに向ける注意】 【対象から発せられるサインや変化を見逃さない心構え】 【判断材料にするための情報収集】 ----- 【臨床経験の中で磨かれる受信能力】	<ケアの必要性の判断> <対象理解>

図1. 看護実践における「アンテナ」の概念

2) 関連例：保健師のアンテナ

保健師の「アンテナ」について記述されていた文献は2件（6、13）であった。文献13ではアンテナについて「健康課題について五感を研ぎ澄ませて全体的にとらえる」「通りがかりに様子を観て変化を見極める」としており、【対象から発せられるサインに向ける注意】【意図的に研ぎ澄ませる感覚（五感・直感）】といった看護師の「アンテナ」と同様の属性を持っていた。さらに、保健師の場合には、「キャッチした情報を統合していくような観察（13）」「周囲の環境と健康状態の関連を把握（6）」と言うように、地域住民個々の健康問題と環境等の地域全体を関連付ける情報を集めて統合することも含まれており、その点が看護師とは異なる点であった。実践の場とその特徴が異なっており、関連例とした。

V. 考察

1. 看護実践における「アンテナ」の概念

一般的な「アンテナ」は広く情報を集めようとするが、看護実践における「アンテナ」は対象の変化やサインという狭い範囲を凝視するような情報の集め方があった。また、何一つ見落とさないという看護師の心構えは、＜良くない病状や変化＞＜言語的コミュニケーションによる理解が困難な対象＞＜何が起こるか予測が難しい状況＞といったどんな些細な情報でも重要となる先行要件があるためと考えられる。

また、【意図的に研ぎ澄ませる感覚（五感・直感）】と身体感覚を使うことも看護実践における「アンテナ」に特徴的であった。これは、看護師がアンテナによって集める情報は単なる文字情報だけでなく、声のトーンや表情、筋緊張、その場の雰囲気など五感を使わなければ集められない情報であることを示している。伊藤（2011）は、「（看護師が）身体を感覚する道具

として働かせ、患者の身体の内外で生じている変化を捉えていた」と記述している。看護師は身体感覚を用いて患者を理解している。特に「アンテナ」の場合には、この感覚を研ぎ澄ませることで、より多くの情報を集めていると考えられる。

2. 看護実践能力としての「アンテナ」の発達

「アンテナ」は【臨床経験の中で磨かれる受信能力】である。文献7では、「常に患者に専心していればこそ磨かれるもの」とし、文献9では「前段階を踏まえることで患者とのコミュニケーションから反応すべき特徴や重要点を把握し、患者の些細な言動の変化やキーワードを察知する能力が身につく、【アンテナ】が創造・精鋭化される」とされている。この前段階とは、患者との「表層的コミュニケーション（9）」や「引き出しの積み上げ（9）」を経験することであり、これらの経験を経て「アンテナ」が創造・精鋭化されるというのである。このように、「アンテナ」は患者や家族との関わりを積み重ねて意図的に張ることができるようになる看護師の能力である。境界例で挙げた学生の場合には、アンテナを張るべき状況を察知し、意図的に張ることは難しい。意図せず患者の変化に気が付く経験や、先輩などから患者・家族の変化を指摘された経験から、先行要件となる状況を察知した時、意図的に「アンテナ」を張るようになると考えられる。この変化は臨床実践能力の発達段階として重要なポイントである。意図的な「アンテナ」を張るためには、いつ、どのようなことを見逃してはならないのか等、それぞれの看護分野で異なる病状進行や患者・家族の特性を理解する必要がある。それらは言語化が難しい場合も多く、その時々経験豊富な看護師が経験の浅い看護師に現場で伝えていくことが重要になると考える。そして知識だけでなく、患者の視線、筋緊張などの変化に気付く感覚を

磨き、気が付いたことによって判断が変化していく看護の奥深さも体験することで「アンテナ」は発達していくと考える。

VI. 看護実践への示唆と今後の課題

今回、「アンテナ」の概念が明らかになったことで、臨床看護師が語る「アンテナ」を理解する手がかりを得ることができた。看護実践の中で使用されているものの、その概念が明確になっていない言葉を明確に定義することは、一部の経験豊富な看護師が無意識に行っている看護実践をより多くの看護師にも実践可能にする一助になると考える。また、その能力は実践の中で発達していくことも明らかになった。しかし、文献に明文化されている「アンテナ」は一部であり、その概念はより複雑である可能性がある。そして、その能力の発達に関連する因子も明示できていない。今後は、臨床実践看護師を対象として、「アンテナ」に焦点を絞ったインタビューをする等して、その概念をより詳細に明らかにしていくとともに、この能力の発達を促す関連因子を明らかにする必要がある。

謝辞：本研究は科学研究費助成事業（2019年度若手研究）により助成を受けている「がんで長期入院中の子どもの理解 看護師の『アンテナ』と『何か言いたそうな感覚』」（課題番号：19K19657）の一部である。

利益相反：本研究における利益相反は存在しない。

引用文献

秋田 由美（2018）：小児がんにより長期入院している学童・思春期の子どもの気持ちに対する看護師の理解と関わり，日本看護科学会誌，38，299-308.

朝日新聞社（2009）：聞蔵Ⅱビジュアル・フォー

ライブラリー，Retrieved from：http://database.asahi.com/library2/main/top.php．（検索日：2020年2月18日）

原 三紀子，小長谷 百絵，海老沢 陸，他（2012）：看護師がとらえた神経難病患者の心のケア 心のケアの目標とその取り組み，日本難病看護学会誌，17（2），137-149.

飯村 直子（2014）：小児科一般外来における看護師の働き ある地域密着型中規模病院におけるエスノグラフィー，日本看護科学会誌，34，46-55.

伊藤 祐紀子（2011）：患者への気がかりをもとに看護していくプロセスの探究 看護師の身体のある様に着目して，日本看護科学会誌，31（3），50-60.

ネットアドバンス（2001）：ジャパンナレッジ Lib. 日本大百科全書（ニッポニカ），Retrieved from：https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=1001000014279．（検索日：2020年2月18日）

ネットアドバンス（2001）：ジャパンナレッジ Lib. 日本国語大辞典，Retrieved from：https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=2002002bf05277J7UMtq．（検索日：2020年2月18日）

Walker, L. O., Avant, K. C. (2005) / 中木 高夫，川崎修一訳（2008）：看護における理論構築の方法（第1版），医学書院，東京.
山下 典子，山崎 登志子（2012）：精神科中堅看護師による精神障害者を理解する自己投入コミュニケーションの構成要素とプロセス，ヒューマン・ケア研究，13（1），28-39.